

**平成 30 年度
運営に関する計画
最終総括**

大阪市立豊里小学校

大阪市立豊里小学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力学習状況調査の結果は残念ながら算数・国語とも、大阪市平均を下回っており、全 国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果も押しなべて低い。しかし、校内に大きな荒れはなく、児童は学校生活や学習に対する取り組みは真面目に一生懸命に取り組んでいる。
- 児童質問紙やアンケートの結果から、自他の尊重や自尊心・自尊感情の成熟といった精神面、情緒面での未成熟さが顕著に表れている。そうした心の未成熟さが、学習や運動に対する取り組みにも大きく影響している。
- さまざまな取り組みを含め本校の学校運営に対して、保護者や地域は比較的高く評価してくれている。ただ、地域に対する帰属感は薄れ始め、それが地域の教育力の低下につながっている。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成 29 年度～32 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年 95 %以上とする。 （施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 平成 32 年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 90 %以上にする。 （施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 毎年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を 0 にする。 （施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 毎年度末の校内調査において、不登校の児童の割合を、毎年前年度より減少させる。 （施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 年度末の校内調査における「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を毎年前年度より向上させる。 （施策 2 道徳心・社会性の育成）
- 年度末の校内調査における「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を毎年前年度より向上させる。 （施策 2 道徳心・社会性の育成）
- 平成 32 年度末の児童アンケートにおける「『豊里っ子宣言』を守っている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 90 %以上にする。 （施策 2 道徳心・社会性の育成）
- 平成 32 年度末の児童アンケートにおける「しっかりと清掃活動をしている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 90 %以上にする。 （施策 2 道徳心・社会性の育成）
- 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える保護者の割合を 90 %以上にする （施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成32年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、いずれの学年も平成28年度より向上させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 平成32年度の小学校学力経年調査における正答率3割以下の児童の割合を、いずれの学年も平成28年度より減少させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 平成32年度の小学校学力経年調査における正答率7割以上の児童の割合を、いずれの学年も平成28年度より向上させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 平成32年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）と答える児童の割合を平成28年度より向上させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 平成32年度末の児童アンケートにおける「英語の勉強は楽しい」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
(施策6 国際社会において生き抜く力の育成)
- 平成32年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点で、大阪市平均を上回る。
(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)
- 平成32年度末の児童アンケートにおける「給食・手洗い」の2項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上とする。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- 平成30年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- 平成30年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を0にする。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- 平成30年度末の校内調査において、不登校の児童の割合を、前年度より減少させる。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

学校園の年度目標

- 平成30年度末の校内調査における「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を前年度（78%）より向上させる。
(施策2 道徳心・社会性の育成)
- 平成30年度末の校内調査における「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を前年度（86%）より向上させる。
(施策2 道徳心・社会性の育成)
- 平成30年度末の児童アンケートにおける「『豊里っ子宣言』を守っている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
(施策2 道徳心・社会性の育成)
- 平成30年度末の児童アンケートにおける「しっかりと清掃活動をしている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
(施策2 道徳心・社会性の育成)
- 平成30年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える保護者の割合を80%以上にする
(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成30年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成29年度より向上させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 平成30年度の小学校学力経年調査における正答率3割以下の児童の割合を、同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成29年度より減少させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 平成30年度の小学校学力経年調査における正答率7割以上の児童の割合を、同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成29年度より向上させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 平成30年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を、同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成29年度より向上させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点の記録を、前年度より向上させる。
(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)

学校園の年度目標

- 平成30年度末の児童アンケートにおける「英語の勉強は楽しい」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
(施策6 国際社会において生き抜く力の育成)
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査の項目「長座体前屈」及び「50m走」について平成30年度末に全学年再調査を行い、その結果が大阪市平均を上回る。
(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)
- 平成30年度末の児童アンケートにおける「給食・手洗い」の2項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)

3 本年度の自己評価結果の総括

「全市共通目標」及び「学校園の年度目標」を日々意識におきながら、全教職員が協力して計画的に取り組んできた。取組内容については、成果が見え、児童の成長を感じることができている。また、保護者、児童アンケートの結果から肯定的回答が多くありその成果を確認できた。しかしながら、学力・体力の数値に反映されるまでには至らず目標が達成できていないところもある。取組内容が適切であったか吟味し、学力・体力向上のための有効的な方策は何であるのか明らかにしながら、全教職員での継続的な取り組みを行っていきたい。また、不登校児童の減少については、引き続き見守り活動を行いながら、関係機関と連携して支援を進めていくとともに、新たな不登校児童を生み出さないために「明るく楽しい学校」作りに日々励んで行きたい。

大阪市立豊里小学校 平成30年度 運営に関する計画・最終総括（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】	
全市共通目標（小・中学校）	
○平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上とする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)	
○平成30年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)	
○平成30年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を0にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)	
○平成30年度末の校内調査において、不登校の児童の割合を、前年度より減少させる。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)	
学校園の年度目標	B
○平成30年度末の校内調査における「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を前年度（78%）より向上させる。 (施策2 道徳心・社会性の育成)	
○平成30年度末の校内調査における「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を前年度（86%）より向上させる。 (施策2 道徳心・社会性の育成)	
○平成30年度末の児童アンケートにおける「『豊里っ子宣言』を守っている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。 (施策2 道徳心・社会性の育成)	
○平成30年度末の児童アンケートにおける「しっかりと清掃活動をしている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。 (施策2 道徳心・社会性の育成)	
○平成30年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える保護者の割合を80%以上にする (施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)	
校内調査・児童アンケート等結果（カッコ内は年度目標）	
全市共通目標（小・中学校）	
○ いじめ解消…いじめアンケートにより把握した164件全てについて対応を行った。	
○ 「学校のきまり・規則を守っていますか」…90%の肯定的回答（80%以上）	
○ 暴力行為…暴力行為を複数回行う加害児童数は0であった。	
○ 不登校の児童の割合…不登校の児童の割合は前年度より増加している。	
学校園の年度目標	
○ 「自分には良いところがあると思いますか」…81%の肯定的回答（78%以上）	
○ 「将来の夢や希望を持っていますか」…89%の肯定的回答（86%以上）	
○ 「『豊里っ子宣言』を守っている」…88%の肯定的回答（80%以上）	
○ 「しっかりと清掃活動をしている」…93%の肯定的回答（80%以上）	
○ 「学校は情報公開をよく行っている」…95%の肯定的回答（80%以上）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ○ 基本的生活習慣の確立のために、学期ごとに『げんきアップウィーク』を設け、児童への意識づけを図るとともに、家庭にもフィードバックしていく。 指標 『げんきアップウィーク』の自己評価で、「早ね・早起き・朝ごはん」の項目の達成状況を80%以上にする。また、個人懇談時に家庭に啓発する。	B
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ○ 遅刻・不登校を減少させるため、児童や家庭に働きかけるための連絡・支援・指導の方法を策定し、全職員で共通理解を図る。 指標 働きかけが継続的に行われるよう、生活指導部を中心に学期に1回連絡会を設定し、課題の整理と取組みの改善を図る。	B
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】 ○ 異学年交流やたてわり班活動を通して、コミュニケーションスキルを高めるとともに、利他の心構えをもつことができるようとする。 指標 児童集会での活動とともに、学期に1回、児童会の行事にたてわり班で主体的に活動する。	B
取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】 ○ 児童会活動や学級活動等で、『豊里っ子宣言』につながる取組みを行い、児童が自己有用感を高めながら、明るく楽しい学校生活を送れるようにする。 指標 全児童が『豊里っ子宣言』を目指す学校づくりへの取り組みに1回以上参加する。	B
取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】 ○ 美化委員会が中心となって設定した美化目標を、集会やポスター掲示などで呼びかけ、学級ごとに、重点的に指導・実践していく。 指標 美化目標の振り返りを毎月行い、目標達成の児童の割合を80%以上にする。	B
年度目標の達成状況や取組の達成状況と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・『げんきアップウィーク』の取組は当初の計画通り行うことができ、自己評価の目標も達成できた。個人懇談会時の啓発の方法は、改善の余地がある。 ・生活指導部を中心に、月1回の生活指導連絡会や児童理解研修会などで取り組みの改善を図ることができた。遅刻・不登校減少に一定の効果があったが、課題は依然残っている。 ・異学年交流やたてわり班活動の取組みを計画的に実施することで、下級生への優しい言動が多くみられるなど、利他の心構えが育った。 ・『豊里っ子宣言』にかかる取り組みでは全校児童が1回以上主体的に参加することができた。 ・美化目標の振り返りでは目標を達成したが、活動が委員会中心であった。ポスター掲示や学級での振り返りが十分ではなく、学校全体としての取り組みとしては課題が残った。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童の意識を高めるため、取り組みの結果が児童の自己アンケートに反映されていくような活動を取り入れる。また、各家庭に、学校と協働して基本的生活習慣の確立が図れる効果的な働きかけを検討していく必要がある。 ・遅刻・不登校減少のための、連絡・支援・指導の方法が徹底できていない部分があるので、再度共通理解する。さらに、より効果的な方法を模索していく必要がある。 ・集会の場所を工夫したり、学校遊びと集会と兼ね、時間を有効に活用したりするなど、より効果的な活動を計画していく必要がある。 ・『豊里っ子宣言』につながる取組みでは、学級活動や児童会のかかわりを深め、児童の主体的な活動として、より楽しく進められる方法を考えていく必要がある。 ・美化目標の振り返りを確実に行うとともに、各学級でも美化目標に向けた取り組みを確実に行う必要がある。また、児童アンケートの結果を指標に入れるなどし、児童一人一人の校内美化に対する意識を高めていく必要がある。 	

(様式例 2)

大阪市立豊里小学校 平成 30 年度 運営に関する計画・最終総括（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかつた	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかつた

年度目標	達成状況
<p>心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○平成 30 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 29 年度より向上させる。 (施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>○平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率 3 割以下の児童の割合を、同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 29 年度より減少させる。 (施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>○平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率 7 割以上の児童の割合を、同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 29 年度より向上させる。 (施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>○平成 30 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）と答える児童の割合を、同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 29 年度より向上させる。 (施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>○平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点の記録を、前年度より向上させる。 (施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成)</p>	C
<p>学校園の年度目標</p> <p>○平成 30 年度末の児童アンケートにおける「英語の勉強は楽しい」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 80 %以上にする。 (施策 6 国際社会において生き抜く力の育成)</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣調査の項目「長座体前屈」及び「50m 走」について平成 30 年度末に全学年再調査を行い、その結果が大阪市平均を上回る。 (施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成)</p> <p>○平成 30 年度末の児童アンケートにおける「給食・手洗い」の 2 項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 80 %以上にする。 (施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成)</p>	
<p>校内調査・児童アンケート等結果（カッコ内は年度目標）</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 小学校学力経年調査<ul style="list-style-type: none">○標準化得点…4 年生は算数・理科の標準化得点が平成 29 年度より向上している。○正答率 3 割以下の児童…4・5・6 年生で増加している。○正答率 7 割以上の児童…4・5・6 年生で減少している。○学習での「話し合う活動」…89 %の肯定的回答 (86 %以上)・ 全国体力・運動能力、運動習慣調査<ul style="list-style-type: none">○男子…5.35 ポイント低下○女子…7.21 ポイント低下 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none">○「英語の勉強は楽しい」…92 %の肯定的回答 (80 %以上)○「長座体前屈」「50m 走」の再調査で男子と女子の 50m 走は大阪市平均を上回った○「給食・手洗い」…90 %の肯定的回答 (80 %以上)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ○ 習熟度別少人数学習の有効活用や「さんさんタイム」実施・ICTの活用などにより、基礎的・基本的な学習内容の定着にむけた取組みを行う。 指標○ ICT機器を活用する場面を週2回以上設定する。 ○ 各学年、各学級の実態に応じた「さんさんタイム」を週1回以上継続して行う。	A	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ○ 課題に対して一人ひとりが意見をもち、交流を通して考えを深め合う指導方法や指導材の工夫を行う。 指標 各学年、年間1回以上の公開授業、討議会を通して授業内容の改善を図り、成果は紀要にまとめる。	B	
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ○ 学校図書館・自動車文庫・学級文庫の活用や、ネット検索を活用した情報収集を行うなどし、授業に活用する。 指標 学校図書館・自動車文庫・学級文庫の活用や、ネット検索を活用した情報収集を行う授業を、各学級年間2回以上行う。	B	
取組内容④【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 ○ さまざまな部会を通して研究を深め、分かりやすい授業の創造を目指す。 指標○ 公開授業・討議会・実技研修会等を計画的に行う。 ○ 週2回以上ICT機器を活用した英語モジュールタイムを計画・実施していく。	B	
取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 ○ 児童の走力・柔軟性を高めるための運動を、体育の授業で行う。 指標 全校で統一した、ストレッチや走力を高める運動「豊里エクササイズ」を、運動会・プール指導の時期を除いた体育の授業で行う。	C	
取組内容⑥【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 ○ 児童の体力向上のため、休み時間の活動や遊びの工夫を行う。 指標 全学級で、学期に1回以上、体育部より提案された多様な学級遊びや活動を休み時間に実践する。	B	
取組内容⑦【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 ○ 給食週間や栄養指導等を通じて食への関心を高める。 ○ 手洗い重点週間を設けるなど手洗い指導を実践し、健康への関心を高める。 指標○ 各クラスの年1回以上の栄養指導や、給食委員会で給食を残さず食べることをよびかける取り組みをするなど、活動を工夫する。 ○ 健康委員会による毎週の健康チェックや、年3回の重点週間を実施し、手洗いを意識づける。	B	
年度目標の達成状況や取組の達成状況と分析		
<ul style="list-style-type: none"> 基礎的基本的な学習内容の定着についての取組では、デジタル教科書や映像資料などを用いてのICT機器の活用は着実に増えている。ただ、タブレットPCの活用については、昨年度に比べて増えたが、利便性に課題がみられる。「さんさんタイム」については、各学年とも週2回以上取り組めている。習熟度別少人数については、概ね計画的に行ってきている。 学力向上の取組では、各学年とも年間計画に沿って授業研究や討議会・研修会を行い、成果を紀要にまとめた。各学年とも、交流を授業に位置付け考え方を深め合えるように指導方法や指導材の工夫をおこなってきた。さらに、高学年では意見をきちんとつこと、中低学年では、主に交流の方法について指導の工夫を重ね、指導を積み重ねていくことが必要である。また、情報収集を伴う授業を国語科や社会科を中心に各学年とも年間2回以上行った。 分かりやすい授業の創造として、全教員が公開授業など行ったり、週2回以上のモジュールタイムをICTも活用しながら行ったりしてきた。 「豊里エクササイズ」を運動会の体操に取り入れたり、講堂での体育の学習時に実施したりしてきたが、年間を通じて定着させるには至らなかった。学習カードの取り組みなど、体育部からの提案で多様な活動を行うことができたが、学級遊びについては継続した取り組みが必要である。給食週間、手洗い重点週間を計画的に行うことができ、健康に対する意識が高まっている。 		

次年度への改善点

- ・学力向上研修会で確認した短期目標や中期目標の内容を確実に行っていく。
(資料の整理・朝学習の時間の確保・教具の適正配置など)
- ・学年毎に置かれていた移動用本棚の有効な活用方法を検討する。
- ・タブレットの活用を高めるための具体例を共有できるようにする。
- ・「豊里エクササイズ」を体育授業時の準備運動として継続して実施できるよう、運動場でも無理なく活動できる内容への改善と定着を図る。
- ・体育部が中心となって、学習カードの配布や多様な学級遊び等の提案を行い、休み時間に実践する。
- ・給食週間や手洗い重点週間の実施内容について、より効果的なものとなるよう検討する。